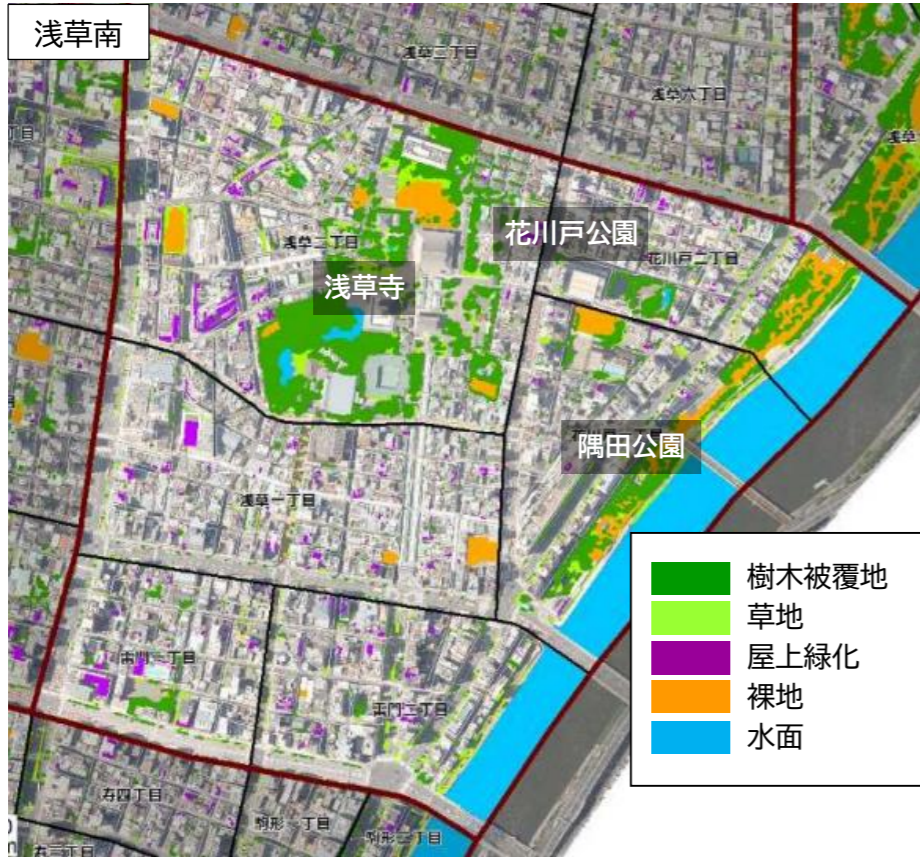


参考2-1. 緑被率の確認

■まちのみどりは少ない

公園、浅草寺周辺に緑被地が集中し、市街地の緑は限られている



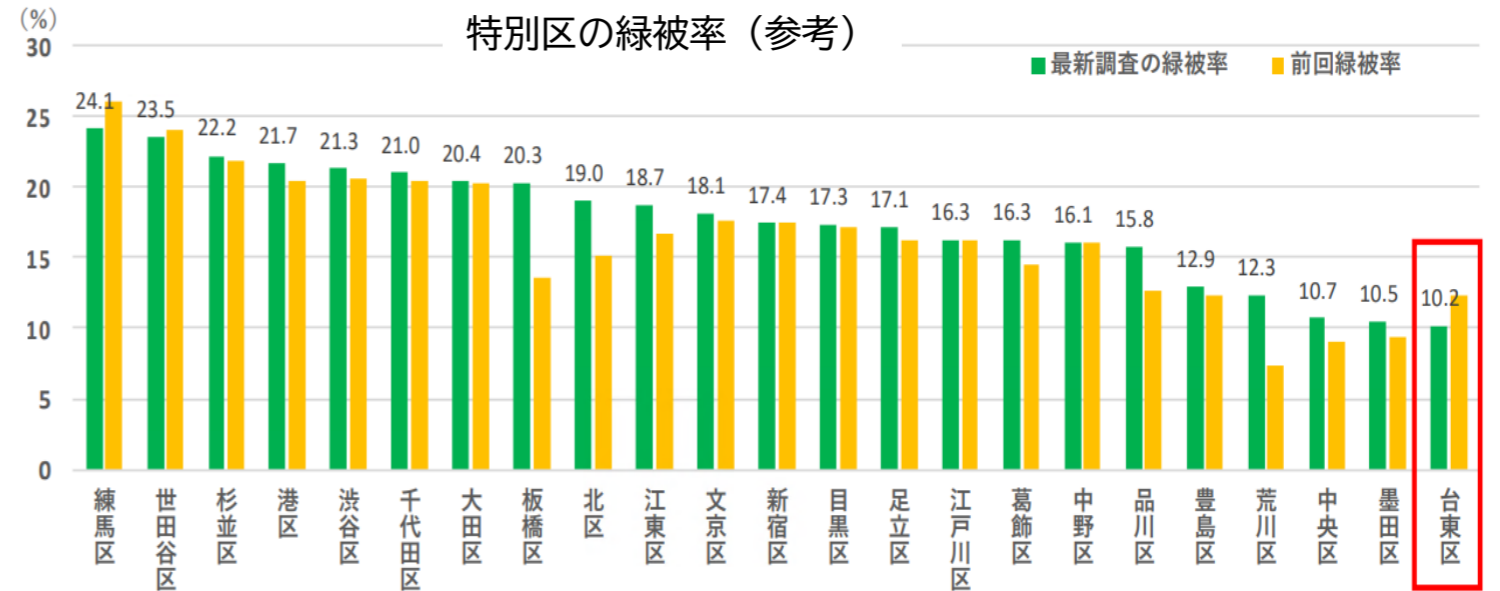
出典：台東区緑の実態調査報告書（平成31年3月）

緑被地は少ない

	ゾーン面積 ha(①)	緑被地面積 ha(②)	緑被率 (②/①*100)
浅草南	65.19	6.19	9.5%
浅草北	49.49	2.14	4.3%
台東区全域	1008.00	101.64	10.1%

※緑被地面積は、「樹木被覆地」、「草地」、「屋上緑化」の合計面積

【参考面積】	
・隅田公園	5.3ha
・浅草寺	6.3ha



※各区によって調査年度・方法・精度が異なるため、直接的な比較をすることはできないが、参考として示すものである。
出典：台東区緑の実態調査報告書（平成31年3月）

緑の持つ機能は、環境面・社会面・経済面の持続可能性を高めることに貢献する

分類	社会的ニーズ	緑の価値	緑地に求められる機能の例
環境面	環境共生社会	存在	温室効果ガスの吸収
		存在	ヒートアイランド現象の緩和
		存在	都市における生物多様性の確保
		利用	環境教育、自然とのふれあいの場
		利用	再生可能エネルギーの活用
社会面	安全・安心の確保 (防災・減災)	存在	大規模火災発生時における延焼防止
		存在	都市水害の軽減
		存在	津波被害の軽減
	健康・福祉の向上	利用	避難地・復旧活動拠点・帰宅困難者支援の場
		利用	災害伝承・防災教育の場
		利用	散歩、健康運動の場、介護予防
	地域コミュニティの醸成	利用	子どもの遊び場、子育て線
		利用	緑の景観形成によるストレス軽減、森林セラピー
		利用	人の集う場、地域の活動の場(祭りなど)
経済面	経済・活力の維持	利用	コミュニティ(ソーシャルキャピタル)の醸成
		利用	地域の自然観・郷土愛の醸成
		存在	良好な環境・景観形成による不動産価値の向上
		存在	良好な環境・景観形成による都市の魅力・競争力向上
		利用	都市農業の振興(生物資源の生産の場)
		利用	観光振興

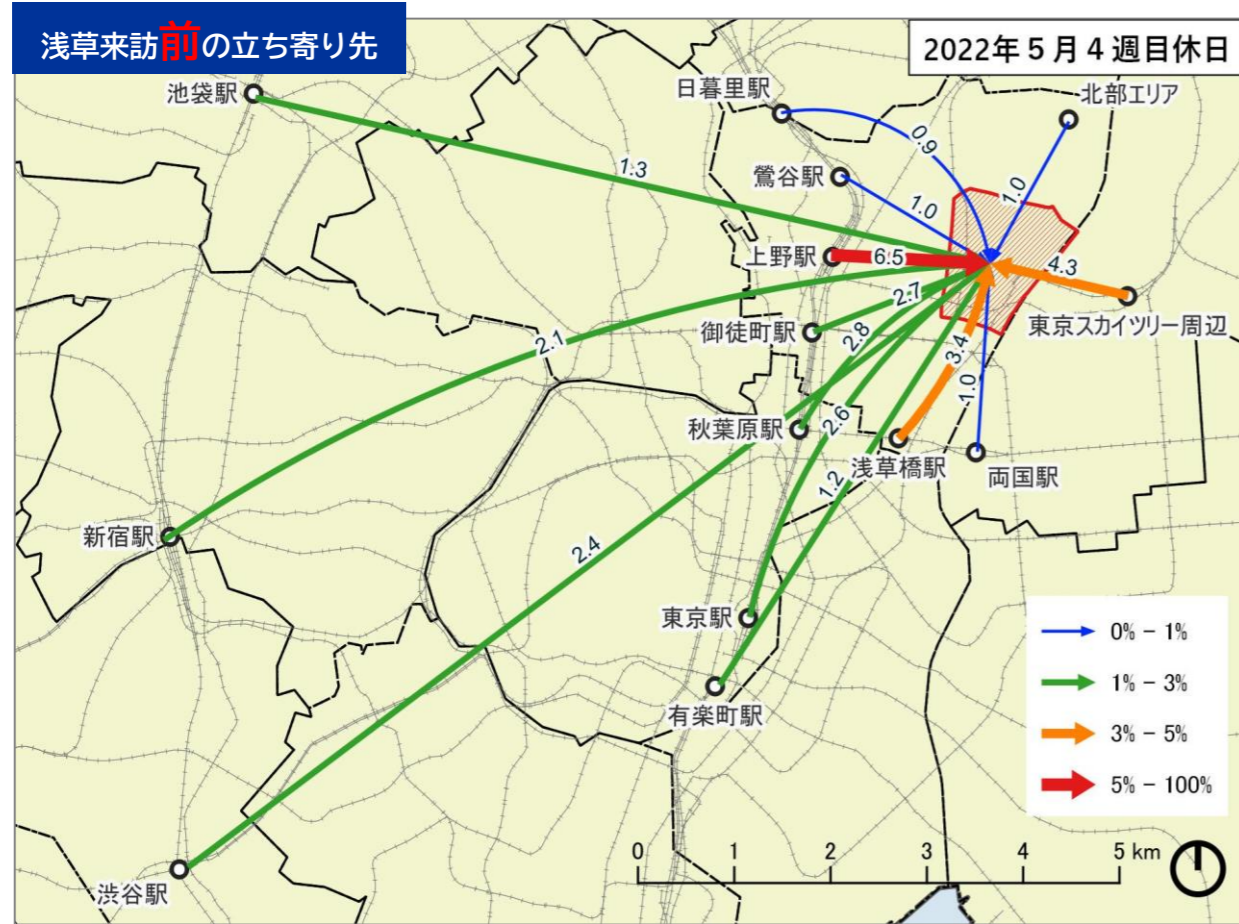
出典：これからの社会を支える都市緑地計画の展望（国土技術政策総合研究所資料）

参考2-2. 上野～浅草地区～東京ミズマチ～東京スカイツリーの人流の確認

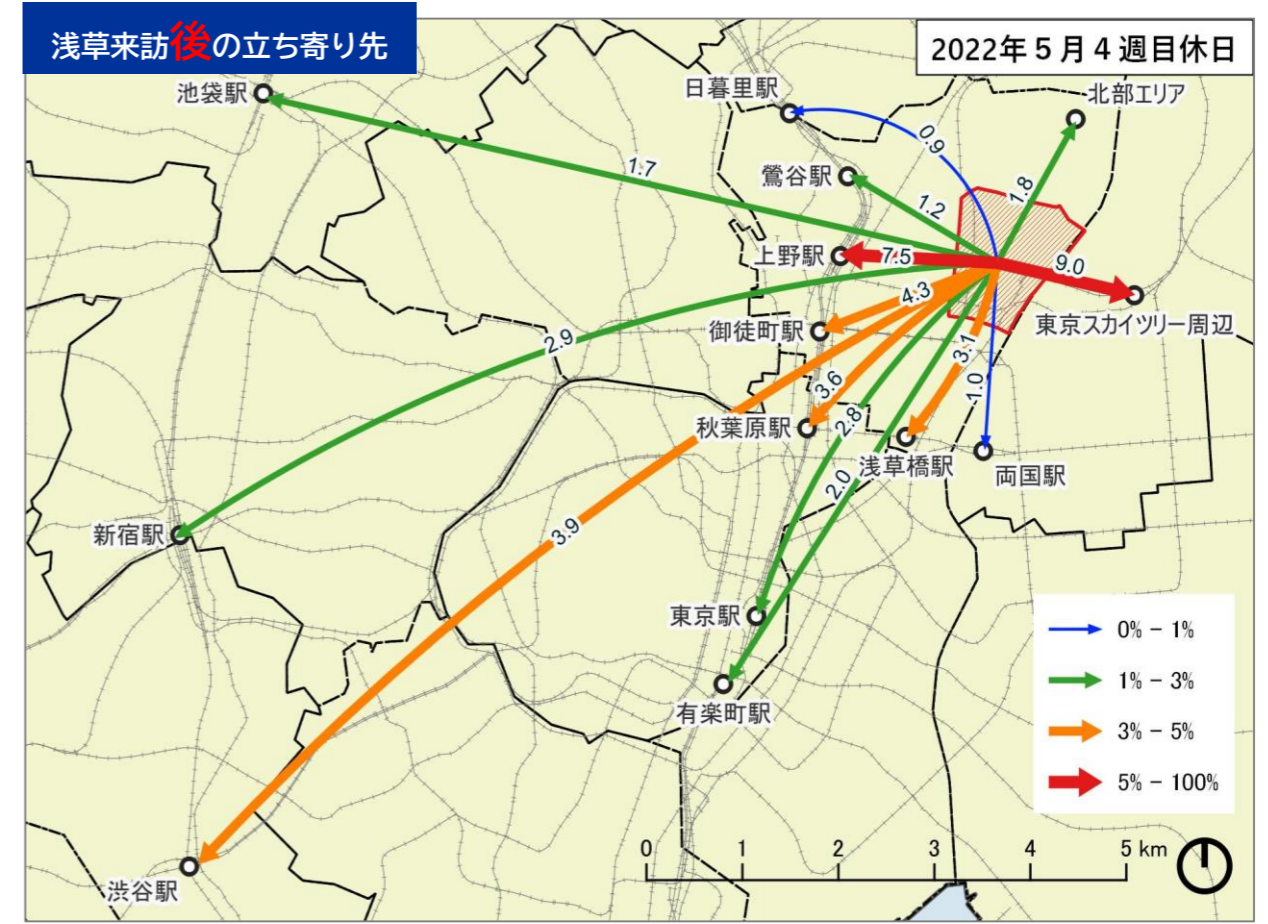
【浅草地区来訪前・来訪後の立ち寄り先】(2022年5月4週)

■他地区との往来は、上野・東京スカイツリー周辺が多い

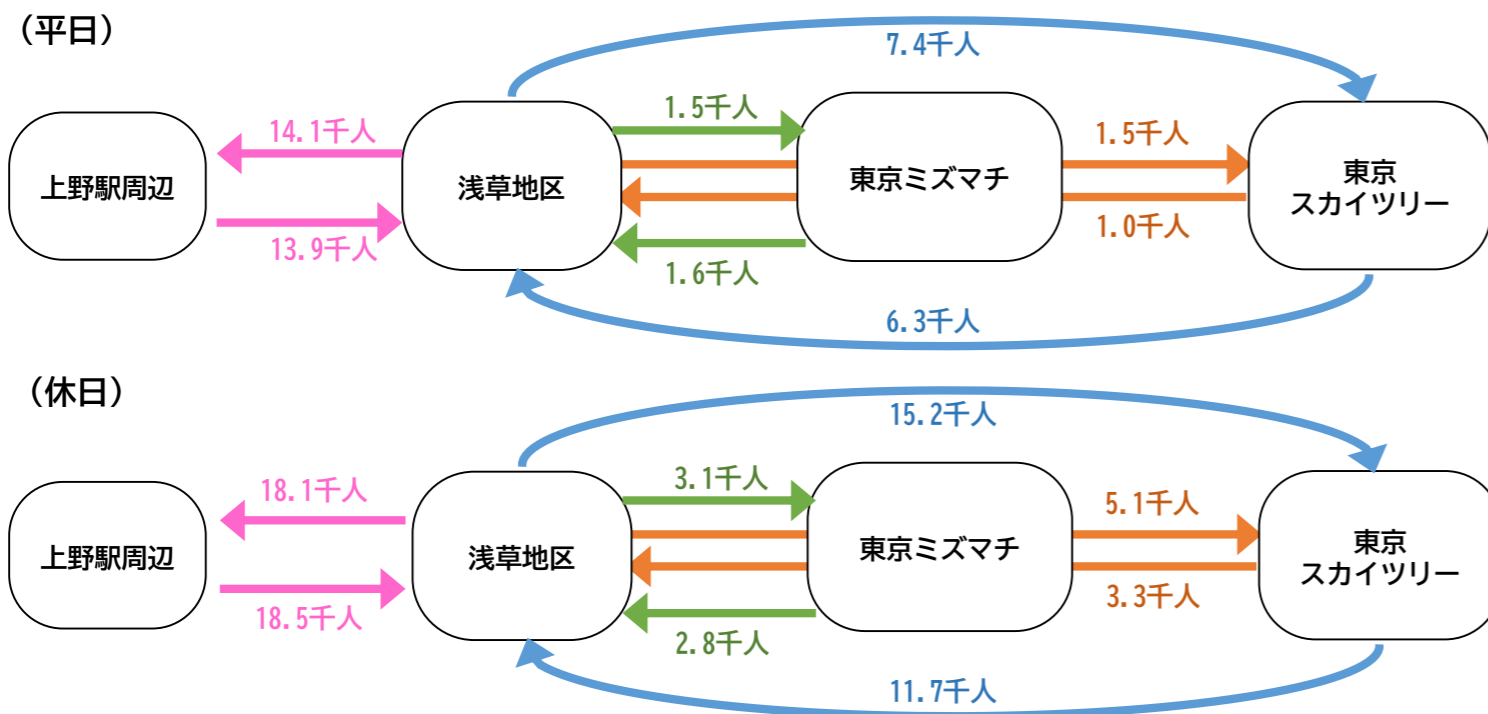
※浅草地区への来訪者全数を100%とした場合の割合を記載



浅草地区来訪後に他地区へ立寄りの方が多い

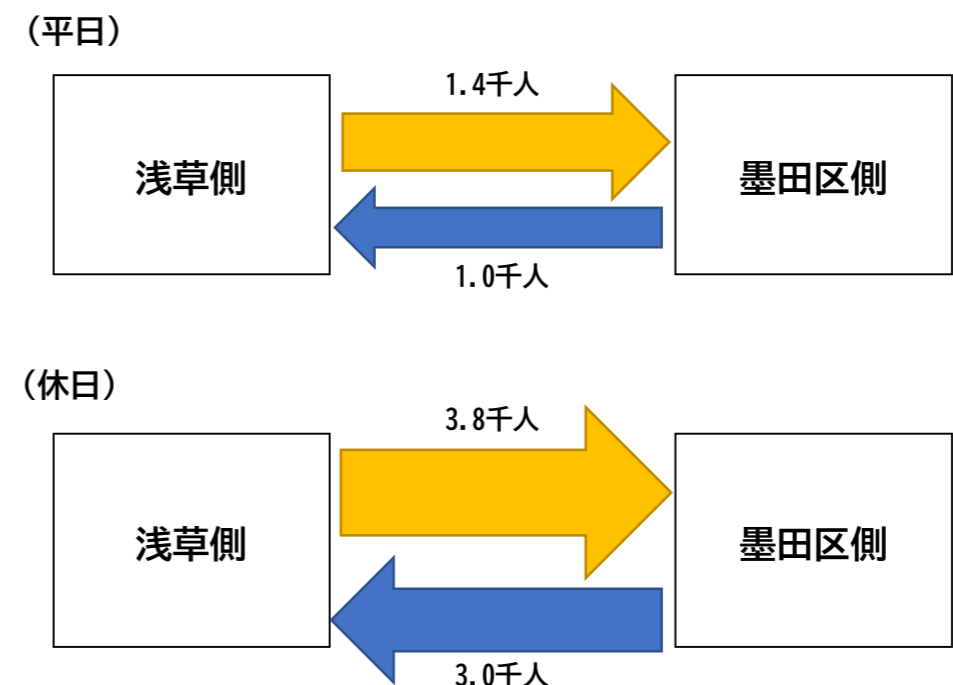


【1日あたりのエリア間の往来者数】(2022年5月4週)



デジタル人流データ調査結果

【1日あたりのリバーウォークの利用者数】(2022年5月4週)



リバーウォーク通行人員(東武鉄道株式会社提供データより作成)

参考2-3. 貨物用駐車場の確認

■路外駐車場（公共・民間）の整備状況

公共駐車場は並木通りの地下に整備



町丁目	個所数	収容台数(台)
浅草1丁目	9	135
浅草2丁目	19	180
浅草3丁目	27	111
浅草4丁目	16	75
浅草6丁目	16	71
浅草7丁目	2	25
花川戸1丁目	9	126
花川戸2丁目	6	32
雷門1丁目	17	95
雷門2丁目	7	238
合計	128	1088

■路上にパーキングメーター等が整備されている

主に雷門通り、馬道通り及び言問通りに整備



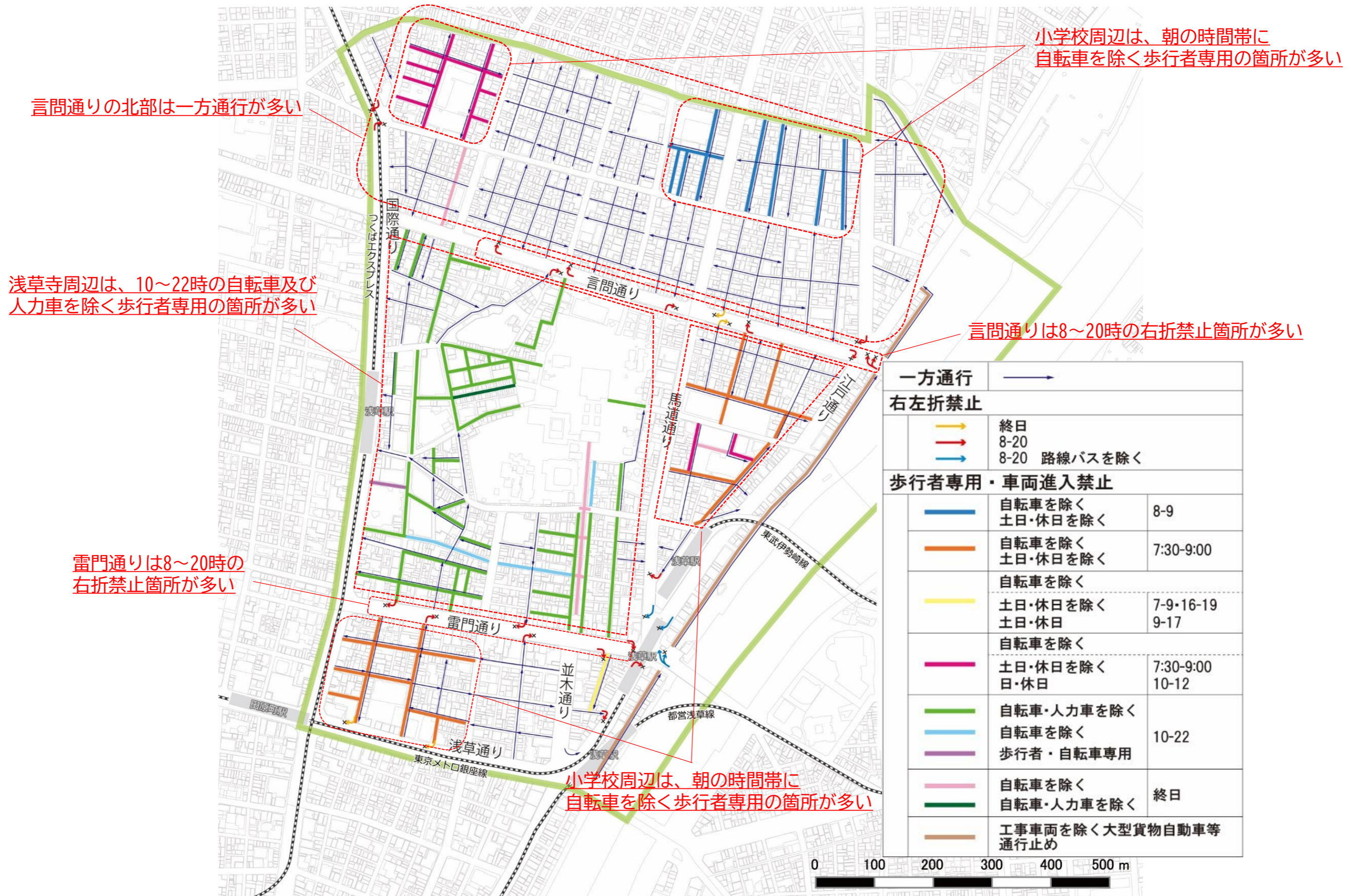
番号	種別 ※1	料金	利用可能日時 ※2	利用可能時間帯	対象車両	台数 [台]
A	PC	300円/60分以内	通年	9:00~19:00	普通車、貨物用あり	6
B	PC	300円/60分以内	通年	9:00~19:00	普通車、貨物用あり	4
C	PM	300円/60分以内	通年	9:00~19:00	普通車、貨物用あり	14
D	PM	300円/60分以内	通年	9:00~19:00	普通車、貨物用あり	6
E	PM	300円/60分以内	通年	9:00~19:00	普通車、貨物用あり	16
F	PM	300円/60分以内	通年	9:00~19:00	普通車	8
G	PM	300円/60分以内	通年	9:00~19:00	普通車	4
H	PM	300円/60分以内	通年	9:00~19:00	普通車	4
I	PM	300円/60分以内	通年	9:00~19:00	普通車	6
J	PM	300円/60分以内	通年	9:00~19:00	普通車	2
K	PC	300円/60分以内	平日のみ	9:00~19:00	普通車、貨物用あり	4
L	PC	300円/60分以内	平日のみ	9:00~19:00	普通車	2
計						76

※1 PM：パーキングメーター、PC：パーキングチケット

※2 1月1日～1月3日を除く。

参考2-4. 交通規制の確認

交通規制の状況



参考2-5. 浅草地区におけるバリアフリーの現況について

1. 台東区バリアフリー基本構想（令和4年10月策定）

台東区では、平成24年度に策定した台東区バリアフリー基本構想の目標年次（令和2年度）終了に伴い、バリアフリー法改正を反映した改定を行い、令和4年10月に「台東区バリアフリー基本構想」の改正を行った。
対象区域は区内全域で、計画期間は令和4年度から13年度の10年間。

2. 台東区バリアフリー特定事業計画（前期）（令和5年3月策定予定）

台東区バリアフリー基本構想において、基本理念を実現するため、3つの基本計画のもと、各施設管理者とともに、特定事業を位置づけ、この実現化に向け各施設設置管理者による特定事業計画の作成及び、区による進捗管理による事業推進を図っている。
計画期間は令和4年度から8年度の5年間。

【基本理念】

誰もが自分らしく暮らせる安全安心で快適なまちの実現

【基本方針】

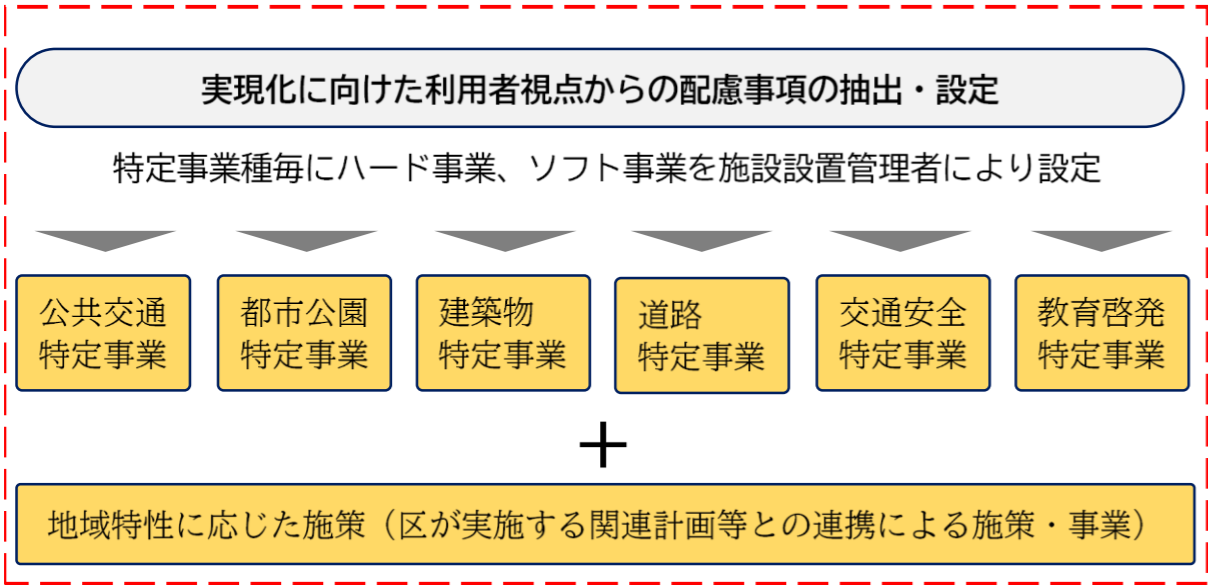
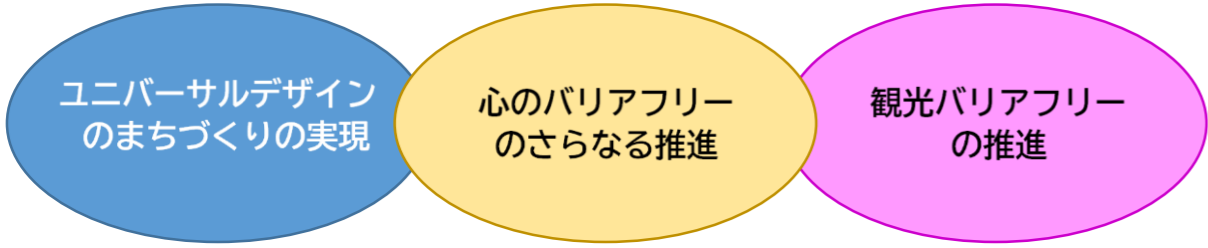


図1-1 基本構想で設定した特定事業等の実現化に向けた流れ

出典：台東区バリアフリー特定事業計画（前期）（案）（台東区）

3. 特定事業計画

特定事業計画は、台東区バリアフリー基本構想に定めた特定事業を実現するために、具体的な事業の内容や事業量、事業実施予定期間などを計画として示したものである。

台東区バリアフリー基本構想において位置付けた生活関連施設、および生活関連施設間を結ぶ生活関連経路を対象として、各施設管理者が異動等円滑化に関する事業として定めた公共交通特定事業、道路特定事業、交通安全特定事業等について、「バリアフリー法」に基づき特定事業計画を策定し、これに基づき、それぞれの施設管理者が事業を実施する。



図 浅草地区周辺の短期特定事業

4. その他の取組

- (1) 観光バリアフリーの推進
台東区バリアフリー特定事業計画では、観光視点のまち歩きやヒアリング等により観光バリアフリーの実施を検討し、課題解決に取り組んでいく。
- (2) 新しい技術に対する取り組み
バリアフリー情報のオープンデータ化など、情報の受け手に応じたバリアフリーの発信についても、鉄道事業者の取組に注視しながら進める。
- (3) 国・東京都や隣接自治体との連携
移動にかかるバリアフリー化の推進には、区域を超えた隣接区との連携が重要になる。今後も区民との協働による取組から得られる検討すべき課題や、新たな知見を国・東京都や隣接自治体に発信するとともに、連携して取り組むことで広域にわたるバリアフリー化の実現を目指す。